

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	農業祭事業					事務事業コード	02804
部 名	市民環境部	課 名	産業振興課	係 名	農業振興係	部課コード	030200

1. 事業概要

総合計画コード	5731	5612		
事業年度	年度 ～ H	年度	事業類型	◎ソフト事業 ○ハード事業
法令等の義務付け	○法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ○義務と任意の両方を含んでいる事業 ◎任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務		<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 朝霞市農業祭実施要綱	
めざす目的成果	農業祭を開催し生産者間での農産物の品評をすることで、農業技術や農産物の品質の改善が図られている。また、農業者間の交流や消費者との交流を通じ農業に対する理解が深まっている。			
事業内容	農業祭会場設営に関する委託料を支出する。 農業祭の運営に係る負担金を朝霞市農業祭運営委員会に支出する。			
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☒ 市民等との協働 ☐ 補助金交付 朝霞市農業祭運営委員会による開催 ・農業委員会、市、JA、農業関係団体、ボランティアで実施 ・会場設営を外部委託している。			

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			・短根人参品質改善増収共進会及び農産物品評会の開催 ・農産物品評会出品物の即売会の実施 ・もち、焼いも、短根人参品質改善増収共進会出品にんじんの販売 ・朝霞産米の無料配布								
			単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込		
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]				900		900		900		
	財源内訳	[イ]国庫支出金									
		[ロ]県支出金									
		[ハ]地方債									
		[ニ]その他									
		[ホ]一般財源			900		900		900		
	b 人件費				5,496		6,962		6,229		
総コスト(a 事業費 + b 人件費)				6,396		7,862		7,129			
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.75 人		0.95 人		0.85 人			
		一般職非常勤職員等(時間)		時間		時間		時間			
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳			委託料 300千円 負担金、補助及び交付金 600千円								
指標名			単位	H28目標・計画		H29目標・計画		H30目標・計画		最終目標・計画	
				(H28実績見込)		(H29実績見込)		(H30実績見込)		目標年度	
活 動	①	開催日数	日	1 (1)		1 (—)		1 (—)		H 32 年度	
	②			()		(—)		(—)		H 年度	
成 果	①	来場者数	人	6,000 (6,000)		6,000 (—)		6,000 (—)		H 32 年度	
	②			()		(—)		(—)		H 年度	

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☒ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☐ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☐ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☒ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 農業祭を開催することで、生産者の農業技術の向上や農産物の品質改善が図られており、また、消費者に朝霞産の農産物を知ってもらい、購入していただくことにより農業に対する理解が深まっている。今後、都市農業の振興や地産地消の推進を図る上でも、農業祭の必要性は増加すると思われる。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☒ 活動指標の目標を達成した ☒ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☐ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 農産物品評会等には多くの優れた農産物が出品されたことは、農業技術や農産物の品質が改善されていたものと考えられる。また、多くの方に来場していただいたことにより、農業者や消費者の交流を図ることができ、農業に対する理解も深まったと考える。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 農業祭をPRするために、ホームページや掲示板、広報誌を利用して多くの方に広報した。 参加と協働: 農業祭の開催に当たっては、各農業団体と協力して事業を行った。 経営的な視点: ホームページや掲示板、広報誌を利用して多くの方に広報した結果、多くの方に来場していただけた。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☐ I 見直す余地がない	☒ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☒ その他 <説明> 農産物品評会における出品点数が減少傾向にあるため、今年度は出品の種類や単位を見直したが、今後も農産物品評会の実施方法について見直す余地が認められる。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☒ A 見直して継続 ☐ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☒ その他 (実施時期: H 年度)		
方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)		農産物品評会の実施方法について、近隣の実施状況を調査研究し、検討する。 多くの農業者が催事に参加でき、また、多くの方に来場していただけるように、催事内容についても改善・検討する。		